

1 介護人材の現状

(1) 本市の介護職員数

約 12,000 人（「H28 介護サービス施設・事業所調査」より推計）

(2) 本市における需給推計

	需要見込	供給見込	需給ギャップ
H32	15,232	12,883	2,349
H37	17,709	13,130	4,579

（厚労省「第 7 期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数」より推計）

(3) 有効求人倍率

	H25	H26	H27	H28
全産業	0.83	0.97	1.20	1.36
介護分野	1.82	2.22	2.59	3.02

（厚労省「職業安定業務統計」、総務省「労働力調査」）

(4) 介護職員の採用率・離職率

	採用率	離職率	1 年未満の離職者
全国	19.4	16.7	39.9
千葉県	23.7	17.8	56.2

（「H28 介護労働実態調査」）

(5) 給与

	平均年齢	勤続年数	平均給与（千円）
全産業	41.6	10.6	362
対人サービス業	39.7	7.9	274
介護職員	40.3	6.1	262

（厚労省「H27 賃金構造基本統計調査」に基づき老健局で作成）

2 介護人材確保対策における国の方向性

介護職員の処遇改善	処遇改善加算（平成 29 年までに月額 5.3 万円相当の改善） 消費税率の引き上げに伴い、更なる処遇改善を実施予定
多様な人材の確保・育成	介護福祉士を目指す学生への学費貸与 潜在介護福祉士の呼び戻し（再就職準備金の貸与） 外国人人材の活用（EPA、在留資格、技能実習生）
離職防止・定着促進	介護ロボット・ICT の活用促進 キャリアアップのための研修受講負担軽減 介護施設・事業所内保育施設の設置・運営支援
介護職の魅力向上	児童・生徒に対する介護の仕事の理解促進・職場体験

3 介護ロボットの現状・課題

- ・単一作業を効率化することには効果があり、職員の負担を軽減する部分はあるが、職員の代替にはなり得ない。
- ・導入費用はまだ高額である。
- ・導入効果が未知数な部分があり、現場での役立て方もわからない。
⇒介護ロボットの導入はまだ進んでいない。

4 本市における介護ロボット普及促進に向けた取組み

(1) 介護ロボット導入促進事業補助金の活用

①導入実績 76 事業所

（移乗支援：19 事業所、移動支援：6 事業所、見守り支援：51 事業所）

②導入効果

導入機種	効果	課題
移乗支援 マッスルスーツ	腰痛への不安が解消され、精神的も余裕ができた。	重量が 5kg あり、長時間の装着は困難。
移動支援 リトルキーパス RT-1	坂道、段差での歩行の際に軽度の力で押せるので、利用者の歩行状態の改善に繋がる。 歩行不可能な方の歩行に成果をあげている。	利用の際の設定がやや複雑で、利用者の理解力が必要。
見守り支援 カリストエール 眠りSCAN ケアロボ	利用者の状態を検知してナースコールに連動して鳴動するので、効果的・効率的な見守りが可能。 瞬時に利用者の状況が確認でき、業務の優先順位や過不足のない介護が可能。	センサーが反応しないことがあった。システムの操作研修に参加する必要がある。

(2) 装着型介護ロボット貸出事業

①事業概要

介護ロボットの普及を促し、腰痛による介護離職を防止するため、装着型介護ロボット（サイバーダイナミクス社製「HAL」）2 台を市が 3 年間賃借し、希望する施設に無料で貸し出す。

②貸出施設数 2 施設

③貸出期間 第 1 期 平成 30 年 6 月から平成 30 年 10 月まで

第 2 期 平成 30 年 11 月から平成 31 年 3 月まで

※ 1 台あたり 2 施設/年 × 2 台 × 3 年 = 12 施設/3 年間

(3) 介護ロボットセミナー

①事業概要

介護ロボットの普及を加速化させるため、市内事業者を対象に介護ロボットの有用性に精通した学識経験者による講演や既に導入済みの事業所から活用方法を紹介する。また、併せて介護ロボットメーカーによる機器の展示・デモンストレーションを実施する。